



子育て世代に対する支援策をより一層進めていきます。子どもたちの笑顔輝くまちに

にぎわいを見せて います。
阪急西宮ガーデンズの開業
は、競輪事業から撤退した西宮
スタジアムの跡地が、本市の活
性化につながる姿で、見事によ
みがえったもので、この地域が、
阪神・淡路大震災から復興を遂
げたことと併せて、感慨深い思
いをして います。

今春には、「甲南大学西宮キャ
ンパス」の開設、子どもの職業
体験型施設「キッザニア甲子園」
の進出、さらに、大阪・難波や
奈良方面とアクセスする「阪神
なんば線」の開業が予定されて
おり、ますます、まちがにぎわ
い、利便性が高まつていきます。
このことは、本市のアメニテ

人形劇まつりの開催など いきがい つながり



市民の皆さんができる舞台芸術を応援する市民プロデュース事業「西宮虹舞台」

いきがい・つながりについてです。少子高齢化や核家族化の進展市民意識の変化などにより、人々の地域社会への帰属意識や人と人とのつながりが希薄化しつつあります。こうした状況のなかで、今後、定年退職をむかえる人々の地域社会での活動を促進するため、新たな事業の展開が求められています。

新年度では、「団塊世代対策基本方針」に基づく施策を推進します。また、生涯学習大学「宮水学園」事業を拡充し、体の不自由な方など公園が困難な人々のために、ラジオ講座を開講します。

また、文化とスポーツの盛んなまちづくりを進めます。

本市は、10を数える大学・短大、多

彩な人材、県立芸術文化センターや大谷記念美術館など多くの文化的な財産に恵まれています。これらを活用し、「文化振興ビジョン」に基づき多様な文化の交流と創造を市民とともに展開しています。

新年度は、山口ホールを開設するほか、友好都市提携しているフランスのロット・エ・ガロンヌ県、亚运会市との美術作品展など文化交流を進めるとともに、プラス・フェスティバルの拡充、全市的な西宮人形劇まつりの開催など、多彩な事業・施策を展開することにより、「文化の美しい風が吹く」心豊かでふれあいのあるまちづくりを進めていきます。

まちの発展へ

市議会でご承認いただくな
ど、西宮のまちを一層飛躍させ
る舞台が整いました。

すべては市民のために

西宮市行政方針

えで、「いきがい・つながり」、「すいやか・はぐくみ」、「あい・しん・あんぜん」、「うるおい・かいてき」、「にぎわい・そつぶう」の5つの施策の大綱を定め、分野横断的に事業・施策を進めています。

健やかに成長する環境を整えることが私たちの責務です。新度は、子どもたちのさらなる力向上に向けた取り組みを進るとともに、学校園の耐震化推進するなど、良好な教育環境を整備します。また、年少入が増加するなか、子育て世代

故や事件に対応するため、危機管理を充実させていかなければなりません。安心・安全を担う防災・安全局と消防局との連携を強化し、災害や危機に強いまちづくりを進めていきます。

だれでも、生涯にわたり、学びを通じて知識を広げ、その活動を社会に生かすことが求められています。生涯学習に係る事業策を効果的に推進するため、組織体制の整備に取り組んでいます。

**まちの発展へ
新たな一步**

市議会でご承認いただくな
ど、西宮のまちを一層飛躍させ
る舞台が整いました。

新年度は、これまでのまちづ
くりの成果をさらに発展させ、
この西宮が阪神都市圏にあって
輝きを放ち、地方分権時代をリ
ードする個性豊かなまちとし
て、新たな第一歩を踏み出す年
です。

私は「すべては市民のために」
との強い決意のもと、夢と希望
がかなう「文教住宅都市・西宮」
の実現に向けて、市民の皆様と
ともに取り組んでいきます。

昨年の秋以降、アメリカに端を発する金融危機に伴う、10年に1度といわれる世界規模の景気後退、株価暴落などの経済情勢の変動による企業の減産などから、全国の各地域で大幅な雇用調整が行われるなど、経済・雇用情勢を取り巻く急激な変化が続いている。

イの豊かさや、これまで積み重ねてきたまちづくりの実績が皆様に評価されたもので、本市の人口は、若い子育て世代を中心として増加の一途をたどり、今や、48万人に迫ろうとしています。

をとともに考え、解決していく」とが、市民の西宮への思いを生かしたままづくりにつながるものと思っています。

新年度から、意見提出手続や政策提案手続など、参画と協働に関する様々な手法を定めた、西宮市参画と協働の推進に関する条例が、いよいよ全面施行となります。私は、この条例を積極的に活用し、市民がもつ富蔵的な知識や経験を生かして、市民の皆様とともに、よりよいまちづくりの実現に取り組んでいきます。

対する支援策を充実するな
「子育てるなら西宮」をよ
実感していただける取り組み
進めていきます。

福祉の充実は、すべての人
願いです。年齢や障害の有無
かかわらず、住み慣れた地域で
互いに支え合い、助け合い、
涙にわたって安心して心豊か
暮らせる社会を実現しなけれ
なりません。私はこうした願
や思いを大切にし、保健・医療
福祉の連携を図りながら、質
高いサービスの提供に努め、
祉のまちづくりに取り組んで

アミユーズメント施設の進出につながり、一層まちがにぎわつてきました。さらに、まち全体が元気であるためには、地域産業が活性化しなければなりません。産業振興のための組織の強化を図り、産業界と連携して活性化に取り組んでいきます。

の価値観が大きく変化、多様化し、市民ニーズが増加し続けています。しかし、財源に限りがあるため、すべてのニーズを満足させることは、大変困難になっています。